

「修学旅行を終えて」

「考えよう 大切な命 平和な未来 沖縄で結ぼう友との絆～イチャリバチョーデー南国さんにめんそーれ思い出づくりレッツ美らGO!!～」。このスローガンのもとで修学旅行が行われました。五月十八日から三日間を私たちは沖縄で過ごしました。天気にも恵まれ、外に出るとカラリと暑かったです。バスの窓からきれいな海が見えると、南国に来たことを実感できました。



体験学習や美ら海水族館、海水浴やエイサーなどで、沖縄の美しい自然や文化に間近にふれ、多くのことを学びました。国際通りは沖縄の方々の活気であふれていました。班別活動では、友達同士の絆をさらに深めました。沖縄で楽しい思い出をたくさん作って、とても充実した時間を過ごすことができました。

楽しむだけではなく、日本で唯一の地上戦となった沖縄戦についてしっかり学びました。平和の礎に刻まれた亡くなった方々の名前の多さに、数字だけではイメージできなかった被害の大きさを痛感しました。資料館では、まだ小学校にも入っていないような年齢の子どもの死体や集団で殺害された沖縄県民の人々の写真があり、その様子が強く印象に残って忘れることができません。他にも、焼け残ったヘルメットなどの金属の防具が、戦争のすさまじさを物語っていました。

ガマには、岩に焦げあとや割れた食器が当時のまま残っていました。ライトを消して入口に背を向けると、周りは真っ暗で水滴が落ちる音だけが響きわたり、時間がとても長く感じました。そこで何日も生活していた方々のことを考えると、胸が痛くなりました。ガマから出てガイドさんの話を聞きました。「戦争はまだ完全に終わっていない」という言葉が印象的でした。不発弾による事故や地中に残った遺骨、米軍基地などの問題が多く残っているからだそうです。一刻も早く本当の平和が訪れることを願います。

今、平和な時代に生きられることに感謝したいです。戦争の歴史を繰り返さないことが、今を生きる私たちの使命なのだと思います。

